論文要旨

学位論文題目：子育て期の共働き夫婦による家事のマネジメント：分担と外部化の視点から
氏名：髙山純子

目的・研究方法

本稿の目的は、子育て期の共働き夫婦がどのように家事をマネジメントしているのかを、家事分担と家事の外部化の視点から明らかにすることである。妻と夫の家庭内の家事役割遂行をめぐる関係性は、”manager(マネージャー)”と”helper(手伝い)“とみなされ、それゆえに妻の家事負担は軽減されないということが問題視されてきた。それでは、どうすれば夫婦は共に家事をマネジメントし、家事負担を均等にすることができるのだろうか。このような関心のもと、本稿では「夫婦の家事分担」と「家事の外部化」という 2 つの視点からのアプローチを試みた。具体的に、以下のようなリサーチ・クエスチョンを設定した。

(1)日常的に家事を分担している夫婦が、それぞれどのように家事役割を遂行しているのかを、家事のマネジメントの視点から明らかにする。

サブ・クエスチョン

①妻は、どのように家事をマネジメントし、また夫と家事を分担する中でどのような相互作用が生じるか。

②夫は、どのように家事をマネジメントし、また妻と家事を分担する中でどのような相互作用が生じるか。

(2)家事負担を軽減するための家事の外部化が、どのように検討・実施されているかを夫婦の意思決定に着目して明らかにする。

夫婦それぞれの意識と行動の詳細、および夫婦間の相互作用がどのようなものであるかを探索するため、調査方法にはインタビュー調査を採用した。具体的には小学生以下の子どもを持ち、夫婦で日常的に家事を分担している共働き夫婦を対象に、個別で 1 時間～1 時間 30 分程度の半構造化インタビューを実施した。調査は 2017 年 9 月から 2018 年 6 月にかけて行い、32 名(14 組 28 名の夫婦、および夫婦のうち一方にのみ調査が可能であった 4 名)から協力を得た。

結果・考察

データの分析の結果、得られた知見は次の通りである。

(1)家事分担について：多くの夫婦は、共働きであることを理由に平等な家事分担を志向していたが、夫

と妻の家事役割を遂行するにあたっての準拠集団が異なっており、それが家事期待水準の相違につながっていた。さらに夫婦間での家事のマネジメントの共有が困難であるがゆえに、家事責任意識を強めたり、自分が期待する家事水準を満たすため夫に働きかける妻たちの姿が確認された。他方で、夫に家事を任せることで、妻自身の家事規範が見直される可能性も見出された。夫に関しては、妻からの指摘に応える形で夫が家事意識や行動を修正する様子が見られた。とくに、妻よりも多くの家事負担を担う夫に関しては、家事分担に葛藤を抱く傾向にあり、その葛藤を乗り越えるために自身の家事役割を再定義することが必要となっていた。

(2)家事の外部化について：家事の外部化の検討に関しては、多くの場合、夫婦の意見の一致が必要であるとみなされていた。そのため、外部化に対するニーズの認識が夫婦で異なっている場合、外部化はなされない傾向にあった。例えば、家事への期待水準が夫婦で異なるために、外部化の費用というコストをかけて得られるものについての認識が夫婦間で異なる場合があった。また夫婦で家事を協働できているからこそ、外部化のニーズを強く認識していないケースもあった。妻たちは、外部化を検討するうえで「子どものためになるか」という点を強く意識していることも明らかになった。つまり、ケアが成立するために必要となる「感知」や「思考」の中には、「ケアの受け手の将来への責任」が含まれることが示唆された。目の前の相手のニーズを察知することだけでなく、明確でない将来への影響までも考慮することは、家事をマネジメントするうえで隠れた大きな負担であることが見出された。また、家事を外部化するとしても家庭外とのマネジメントが必要となり、その負担もサービスの利用を躊躇する要因となっていた。ただし、その負担は、利用が習慣化していくにつれ軽減されうることも示された。

結論

本稿では、家事の「マネジメント」、すなわち家事の「見えない部分」に焦点化した結果、夫婦で共に家事のマネジメントを担おうとすることは、非効率性を孕み、またときに夫婦間の衝突をもたらすものである可能性が示された。家事のマネジメントは“Sentient Activity”に支えられている以上、その思考を共有することは難しい。それでも夫婦で家事を協働しようとする背景に、2 つの理由があることが示唆された。第一に、夫婦が共に家事をマネジメントできることによって、家庭内役割の交代可能性が生じる。第二に、夫婦が共に家事をマネジメントしようと試みるということ自体が「協働」という価値の実践であり、夫婦関係の構築につながっている。そしてマネジメントの共有のためには、夫婦それぞれが相手のニーズをくみ、互いの主張の均衡点を探すこと、つまりケアの与え手同士の関係性への配慮が重要であると見出された。